

「鯉のぼり」がいっぱい

唱歌「鯉のぼり」といえば「♪いらかの波と雲の波～」と「♪屋根より高い鯉のぼり～」の2曲が定番ですが、「鯉のぼり」という題名の同名異曲の歌は10曲もあります。戦前に作られた唱歌には同名異曲の多い歌がたくさんありますが、その多さでは「鯉のぼり」が一番です。

(同名異曲の多い歌:「さくら」「富士山」の9曲、「うみ」の8曲、「お正月」「日の丸」6曲など)

<p>a. 鯉のぼり 大正2年 尋常小学校唱歌 5年 薨の波と雲の波 重なる波の中空を 橋かおる朝風に 高く泳ぐや鯉のぼり</p> <p>b. こいのぼり 昭和6年 エホンショウカ 幼稚園 やねよりたかい こいのぼり 大きいまごいは おとうさん 小さいひごいは こどもたち おもしろそうに およいでる</p> <p>c. こいのぼり 昭和17年 国民学校唱歌 3年 お日さまのぼる もえたつみどり 真鯉がおよぐ 緋鯉がおよぐ</p> <p>d. 鯉のぼり 昭和10年 児童唱歌 6年 さみどりの 5月の空に 緋鯉真鯉の鯉のぼり 高く大きく勇ましく おの子の幸を寿ぎて 風に泳ぐ</p> <p>e. 鯉のぼり 大正4年 大正幼年唱歌 黒い鯉やら赤い鯉 大きい鯉が幾匹も 並んで竿につかまって 負けずに泳ぐ元気良さ 日本晴れの青空で</p>	<p>f. 鯉のぼり 昭和7年 小学新唱歌 3年 五月の光り ちらちらすれば 青葉若葉がさらさらおどる 風を泳いで五月の鯉が 坊やのお顔にちらちらおどる</p> <p>g. 鯉幟 昭和10年 高等小学唱歌 1年 五月の空は晴れ渡り 風の薫れば矢車の 音も朗らかに陽を浴びて 雄々しく泳ぐ鯉幟 日本男児の 意気見せて</p> <p>h. 鯉幟 明治34年 幼稚園唱歌 大きな黒い親鯉に 小さな赤い鯉の子が 幾つもついて昇って行く海のような大空に</p> <p>i. こいのぼり 作詩:サトウ ハチロー 小学1年 からりとほれたあおぞらに およいでいます こいのぼり つばめがそばから こんにちは</p> <p>j. 鯉のぼり 昭和5年 作詞:林柳波 作曲本居長世 さわさわさわさわ鯉のぼり かぜに拭かれて竿の先 今日も大空 五月晴れ 幾つも幾つも 泳いでる</p>
---	---

a. 鯉のぼり 大正2年 尋常小学校唱歌 5年

「♪いらかの波と雲の波～」 躍動感のあるこの歌は現在の小学校5年の教科書に載っています。小学校5年生の孫が教えてくれました。平成21年2月発行「新しい音楽5」(東京書籍)です。

文語体の「♪いらかの波と雲の波～」より平易な言葉の「♪屋根より高い～」の方が多く歌われていると思っていましたので孫の情報は予想外でした。しかしそれは当然かも知れません。「薨の波」は小学校唱歌5年用として、また「屋根より高い」は幼稚園唱歌として作られたものですから。

「薨の波」とは瓦ぶきの屋根が波のように見えるということで、「いらか」は「いろこ」→「うろこ(鱗)」が語源です。「薨」が鯉のぼりの「鱗」に通じていることを考えるとこの詩の巧みに驚きます。

大正2年(1927年)に発表されてから現在まで、途切れた一時期があるとはいえ100年もの間、教科

書に使われているということにも驚きます。「われは海の子」とともに超ロングラン唱歌です。

作詞・作曲者について

「ふるさとの四季」の本によると「こいのぼり」「茶摘み」「われは海の子」「村祭り」「冬景色」「雪」は「文部省唱歌」と書いてあるだけで作詞・作曲者は不詳です。

これは国が作った唱歌とするため、作者名が伏せられ著作権は文部省に帰属して「文部省唱歌」と呼ぶことにしたためです。

戦後は個人の著作権が認められて作者名が分かったものもあります。

「薨の波と～」も作曲者不詳となっていますが、弘田龍太郎（1892～1952年）が東京音楽学校在学中に作曲したものとされています。弘田龍太郎の故郷の高知県安芸市溝ノ辺公園には「鯉のぼり」の歌碑が建てられています。

弘田龍太郎は他に「靴がなる」「浜千鳥」「叱られて」「雀の学校」「春よ来い」などの作曲があります。なお、「鯉のぼり」の作詞者は不詳です。



「薨の波と～」の歌碑
安芸市溝ノ辺公園

b. こいのぼり 昭和6年 エホンショウカ 幼稚園 作詞：近藤宮子 作曲：不詳

「大きい真鯉はお父さん、小さい緋鯉は子どもたち」となっています。ではお母さん鯉はいないの？当然の疑問です。真鯉と緋鯉しか歌には出てきません。歌が作られた時には鯉のぼりは真鯉と緋鯉の2旒が普通だったからです。

ところが下のイラストの鯉のぼりをご覧ください。真鯉と緋鯉が逆になって「大きい緋鯉はお母さん、小さい真鯉は子どもたち」のようです。この歌のイラストではありませんが教科書としては変です。

近年の鯉のぼりは真鯉と緋鯉だけというのはなくなって、黒い真鯉のお父さん、赤い緋鯉のお母さん、青い鯉のこども鯉の3旒が普通です。緑色のこども鯉もあります。家族全員の鯉のぼりになりました。

c. こいのぼり 昭和17年 国民学校唱歌第3学年用 作詞：不詳 作曲：井上武士

1. お日さまのぼる 燃え立つみどり まごいがおよぐ ひごいがおよぐ
2. のぼりをたてて みんながいわう よいこになあれ おおきくなあれ
3. のぼりをたてて おとこのこども おおきくなって にっぽんだんじ

私は国民学校世代ですのでこの歌を何となく覚えています。「おおきくなって にっぽんだんじ」などとやっぱり戦時色のある唱歌ですが、戦後は3番を省いて小学校2年生用唱歌として歌われていました。右はその教科書です。

昭和30年代まで学校で教えたこの「こいのぼり」が、今なぜ忘れ去られてしまったのか不思議に思います。もしかして50代後半の世代の方はご存じかも知れません。

d.～j. の7曲の「鯉のぼり」は全部聞き覚えがありませんでした。

忘れられた「鯉のぼり」は下のURLで聴くことができますので、よろしければどうぞ。

http://bunbun.boj.jp/okera/w_shouka/s_ko_kumin/s1_koi_nobori2.htm

亀岡弘志（記）



昭和35年「総合しょうがくせいのおんがく2」(音楽之友社)